



## フィリピン国セブ市における資源循環推進事業 創出に関する普及・実証事業について

萬世リサイクルシステムズ(株)  
ブルーエコノミー研究所 藤原 晶子

### はじめに

平成 13 年 3 月、横浜市金沢区に設立された萬世リサイクルシステムズ株式会社(資本金 8,500 万円 従業員 32 名)は、産業廃棄物の中間処理施設として木くずや廃プラスチックの原燃料化事業をしている。当社が製造販売している木質チップや廃プラスチック由来の燃料(フラフ燃料、RPF)は、従来埋立や単純焼却処分されていたゴミをリサイクル、化石燃料(石油や石炭)の代替燃料として資源保護及び地球温暖化防止の CO<sub>2</sub> 削減に貢献している。

### これまでの取組

平成 24 年度外務省の政府開発援助海外経済協力事業委託費による案件化調査において、当社の廃棄物リサイクル処理技術、廃棄物管理技術、中間処理施設運営ノウハウが、フィリピン国セブ市の廃棄物処理の課題(廃棄物処理行政のノウハウ不足、資源ゴミとしてのプラスチックが十分にリサイクルされていない点等)解決に有効に活用できるポテンシャルがあると確認した。案件化調査の成果が評価され、次のステップとして、独立行政法人国際協力機構(JICA)の普及・実証事業に採択、平成 26 年 1 月から約 2 年間セブ市で当社の廃プラスチックのリサイクル技術による廃棄物最終処分場(イナヤワン衛生埋立地)のリハビリテーションに取組む運びとなった。

### 今後の展開について

今回の普及・実証事業では、廃棄物最終処分場内に堆積(当初計画の 2 倍の量)されている廃棄物の中からフラフ燃料の原料となる廃プラスチックを精微に選別、その原料から現地のセメント工場へ販売可能な品質の燃

料を製造することで、最終処分場のゴミの減容化を試みる。また、最終処分場内には、ゴミ山から有価物を拾い集めて売り、日々生活している人たちが数百名おり、その人たちが扱わない廃棄物をリサイクルすること、現地に中間処理施設を設置することで雇用を創出することで貧困層へ配慮する。実証プラントにて現地スタッフへ施設内設備の操作技術指導、保守点検の教育指導を行い、パイロット試験やデモンストレーションを実施することで、当社の技術を広く普及させたい。



1 最終処分場に搬入されてきたゴミに集まる人々

### おわりに

当社のフィリピン国セブ市での取組は、横浜市と包括的連携協定のある JICA をスーパーバイザー、横浜市をアドバイザー、同じく横浜市を拠点とするカーボンフリーコンサルティング株式会社をコンサルタントとした「チーム横浜」で現地の期待に応えるよう事業を推進してまいります。



2 普及・実証事業の現地調印式



3 案件化調査時公民連携(横浜市職員、セブ市職員、当社社員)